

令和2年度

詩吟朗詠錦城流 一般社団法人詩吟朗詠錦城会

全 國 大 会

【開催日】 令和2年10月4日(日) 【会場】 山口県周南市文化会館

ところが、本年は、年初より新型コロナウイルスで、全世界が未曾有の災害に見舞われ、先



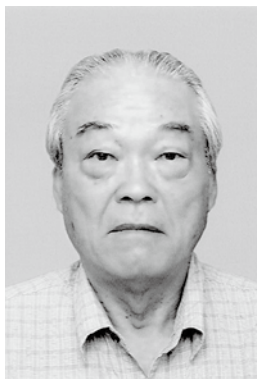
周南市文化会館

暑さも和らぎ、さわやかな秋晴れと予想される令和2年10月4日(日)、山口県周南市の「文化会館」にて、国歌斉唱・大合吟「富士山」が響きわたる令和2年度詩吟朗詠錦城流・一般社団法人詩吟朗詠錦城会全国大会が幕開けとなる予定でした。



山口県本部長 山本城助

役員の皆様の苦渋の決断により、10月までの多くの準備の都合もあり、やむなく中止されることになりました。山口県としては、観客の動員・宣伝をどうするか、資金等の準備の真つ最中で、非常に残念な結果となりました。全国の会員の皆様も、全国大会に参加するため山口県に来られる予定をされていたと思いますが、やむなき事情により中止に至った方もおられることと思います。思い起こせば、今回、山口県本部としては、3度目の全国大会の予定でした。1回目の山口県での全国大会は、昭和63年でした。この時は、昭和天皇の御病気を気遣い、一時は中止の話も出ましたが、積み上げてきた準備等を勘案して、自粛の通達もあり、終始粛々として開催されました。2回目の山口県での全国大会は、平成20年でした。この時は、人員も充実しており、終始順調に実施ができました。3回目の今回は、山口県も高



芹澤城征 福島県本部長

◆本部長の交替◆

◆組織体長の変更◆
ひたちなか支部(茨城) 立原城都
平西支部(福島) 会川錦信
◆催事のご案内◆
(令和2年11月)3年3月
◆本会主催 ◆本会后援
◆指導者研修会
・2月25日(木) 26日(金)
・京都からすまホテル
一龍齋貞心先生の「玉菊灯籠を聴く会」
◆あなたから声かけを
まずはお声かけを
あなたから声かけを
まずはお声かけを
あなたから声かけを
まずはお声かけを

◆組織体長の変更◆
ひたちなか支部(茨城) 立原城都
平西支部(福島) 会川錦信
◆催事のご案内◆
(令和2年11月)3年3月
◆本会主催 ◆本会后援
◆指導者研修会
・2月25日(木) 26日(金)
・京都からすまホテル
一龍齋貞心先生の「玉菊灯籠を聴く会」
◆あなたから声かけを
まずはお声かけを
あなたから声かけを
まずはお声かけを
あなたから声かけを
まずはお声かけを

新型コロナウイルス感染回避による稽古中止の実情調査依頼の集計結果並びに「会費免除要請について」の総本部の見解

一般社団法人 詩吟朗詠錦城会 会長・城戸城瀧

世界中に蔓延する新型コロナウイルス感染症は、ついに米国のトランプ大統領を脅かすまでに広がりを見せ、錦城会会員の皆様もさぞかしお氣遣いのことと存じます。この様な中、本年2月に降、本会も殆ど全ての行事の中止を余儀なくされ、また教場によつては公共施設などの貸し出しが止められるなどの結果、稽古も休まざるを得ない状況となった支部・道場・吟詠部も多々あつたとの報告も聞いております。稽古も無い、行事も無いのに会費を徴収するのはおかしいのではないかと意見も数件寄せられており、早く結論を出さなくてはいけないと考えておりましたが、会議の開催も儘ならず、事務局としては全国の支部・道場・吟詠部の現況を知るための調査をすることといたしました。

その結果が出た、去る10月2日、関東地区の理事・参加にも参加頂き、相談役(宗家)にもご出席いただきまして、拡大常務理事会を開催し協議致しました。調査の結果は、煩雑になりましたので詳細は省きますが、2月から8月までの7か月間で最も稽古の実施が少なかったのは4月と5月であり、20都道府県本部のうち、全く稽古が出来なかつた都道府県が5本部ありました。さて、結論ですが、会議出席

者の総意により、収めた会費を返すことについては、ご要望にお応えすることは出来ないという事であり、そもそも錦城会は社団法人であり、定款の定めるとおり、会費は一人一人の会員の会費拠出によつて成り立っているものであり、定款の定めに基づく会費規程は総会の議決を経なければ変更できないことになっております。

また、それならば国が行つたように、助成金とか補助金という形で拠出し、その使途は各本部に任せるといふ方法も検討しましたが、これも、先の総会で議決した予算書のどこにも支出する項目が無く、もし支出するとすれば予備費の200万円からという事になります。予備費の持つ、各項目の不足分を賄うという性質からは逸脱することになります。更に、この半年間での会員の

減少数は約250人に達し、これからの半年間に同数の減少が生ずれば年間500人の減少となり、当初の収入予測を大きく下回ることとなります。事務局としては、これまでの緊縮財政のもとで遅らせてきた封筒印刷機の更新、定款・規程集の作成、ホームページの見直し、過去の全国大会のアルバムのDVD・R(デジタル)化等々、次年度以降に実施すべき事項が沢山あり、少しでもプールすることが出来れば有難いのであります。

以上、縷々申し述べて参りましたが、何卒ご理解を頂きまして、今後とも会員の増強にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。調査にご協力いただきました組織体長、教場長その他関係各位に心より御礼を申し上げます。

第57回 吟道之碑前祭

今年度の吟道之碑前祭は、11月29日(日)に予定されておりましたが、未だ新型コロナウイルスの収束の目途が立っておらず、中止が決定されました。本年度は、次の方々が合祀対象者となりますが、来年度の吟道之碑前祭開催時に再度、合祀対象者となられます。(敬称略)

- 西郷錦洗 大師範 鹿児島
- 水間城水 総教師範 神奈川
- 酒居錦呈 大師範 滋賀
- 早川錦編 大師範 鹿児島

新入会員の紹介 (6/10/10)

- 出水支部 野間 健
- 玖珠支部 矢沼夏子
- 薩摩川内支部 野田晃代
- 米原支部 青木 理
- 津屋崎道場 川西君江
- 小名浜支部 桐原幸子
- 鹿児島支部 田中耕一
- 都城支部 西川彩葉
- 長崎支部 今山洋子
- 名古屋熱田道場 小早川慶光
- 日立支部 石井恵
- 水戸支部 桑原信司
- 糸島道場 三坂慶介 三坂純太
- 熊野道場 野村冬美
- 草津支部 掛田たか子
- わいわい吟詠部 高野忠邦
- 福岡中央道場 前川孝治
- 函館支部 柳谷洋子

◆新大師範の紹介◆

本部	の動き	取得日
宮崎城浩	総教師範	福岡
小谷野城鑑	大師範	東京
丸山城壮	宗範	神奈川
池淵城秀	大師範	福岡
山本城悦	大師範	山口
林 錦弦	総教師範	滋賀
平野城睿	(神奈川県)	2・6
石井城花	(神奈川県)	2・6
岩崎城信	(神奈川県)	2・6
岡本錦粹	(神奈川県)	2・6
橋本城秀	(神奈川県)	2・6
山口城宝	(東京都)	2・6
橋本錦和	(神奈川県)	2・6
竹脇錦綾	(東京都)	2・6
佐藤錦泉	(神奈川県)	2・6

9月12、13日 愛知県本部の師範指導と昇格審査

コロナ禍で

コロナ禍で、各地区での催しも中止が続く中、何人かの本部長に、入会のきっかけ、コロナ禍での過ごし方、お稽古の状況等についての投稿を依頼しました。ご協力をいただきました2名の本部長の投稿をご紹介します。

(S)

錦城会との出会い

宮城県本部長 藤田 錦信

私が錦城会と出会ってから55年になります。詩吟を始めたきっかけは、母・藤田錦悠と僅かな時間でも一緒にいたかったからです。私が14歳の頃、当時の母は、朝から夜中まで一日中詩吟指導をはじめ、仕事に追われる日々でした。稽古をしてもらっている時だけが、母を独占できたのです。その頃、初代宗家と丸山城壮先生に、年に数回おいでいただきご指導を頂きました。

学校卒業後、初代宗家から、内弟子に入らないかと声をかけていただき、2年間お世話になりました。当時、本部は杉並にありました。先輩内弟子さんとして、東本錦怜先生、久保錦鳴先生、村上城修先生が勉強をされておられました。東本先生、村上先生が事務所、久保先生が台所仕事を手伝いしておりました。私は、久保先生の元で料理を教えていただきました。

私になり、各先生方が昼間の仕事を終え、事務の仕事のため、駆けつけていらつしやいました。仕事が一段落しますと、初代宗家の声掛けで、一杯飲みながらのお夜食タイムが始まるのです。多い時で、15〜16人での大賑わい、就寝は3時ぐらいいました。とても懐かしく、かけがいのない思い出となっております。

私たちが内弟子の稽古はというと、それぞれの持ち場で、稽古にいらつしやった会員さんへの指導をロバの耳で聴いて勉強いたしました。内弟子に入っている間に、初代宗家は、広島と鹿児島にて2度のリサイタルを開催され、琵琶持ちをしていた私は、舞台の袖で素晴らしい生の吟を聴くことができました。また、武道館での全国コンクールや50人の大合吟コンクール等、貴重な経験をさせていただきました。青年部主催の大運動会等もありました。

昭和51年7月に師範を頂き、

その後、帰塩したのが23歳の時でした。その年の12月、小学校の同級生で、吟友でもある松原城峯と結婚いたしました。子供が生まれてからは、子育てに専念し、指導を10年ほど休みました。子供たち4人も会員として毎年行われる全国大会には、家族総出6人で参加をしております。

県本部長を任命されたのが、平成14年10月28日。宮城県本部温習会を塩釜支部、仙台支部、気仙沼支部、盛岡支部、古川道場が持ち回りで毎年総会を兼ね

コロナ禍で想う事

東京都本部長 遠藤 城啓

令和2年は、コロナウイルスの蔓延により、総本部に於いても各地域に於いても、ことごとく行事を中止せざるを得ない状況となり、寂しい思いをされている方が多いと思います。

て開催しております。一二〇〜一五〇人の参加者で、大いに盛り上がりつつありましたが、あの平成23年の東日本大震災・・・時代の流れも影響し、会員数が激減してしまいました。今年の温習会も、コロナ騒動のため、泣く泣く開催を断念いたしました。少しでも会員を増員し、再び県本部大会や支部大会を開催し、賑わいのある宮城県に戻したいと思っております。

このような状況ではありませんが、会員のみなさまのご健康を心よりお祈り申し上げます。

そんなコロナ禍の中、私が一番に想う事は、4月に開催を予定していた「東京都本部六十周年記念大会」の事です。都本部では周年大会を5年毎に開催する事としており、概ね2年位前から会場選び等準備に取り掛かって居りました。皇居・千鳥ヶ淵の櫻の写真をプログラムの表

紙として作成、多くのお客様に錦城流の詩吟・詩舞を見て頂けるよう、会員一丸となつて大きな会場ですが、そこをお客様でいっぱいにして！と頑張ってきました。が、コロナ感染者が日を追う毎に増加して、会場の新宿文化センター大ホールで開催を予定している他の催しが、次々と中止又は延期となつてゆく中、本年3月には大会を開催するか否か決断を迫られ、頭を悩ませる日々を過ごしました。本大会は都本部六十周年に併せて大田支部六十五年、船橋道

場四十五年の記念大会と併せての大会で、この様に合同で開催する事は都本部大会としては初めての事でもあり、何とか実施したい。と、感染者の動向に気をもんで注視して居りました。既にプログラムの大半がお客様の手に渡っている状況下にありましたが、感染者の減少は見られず、結局は、お客様を始め協賛を頂く先生方、そして会員の安全・安心を第一に考え中止する事となりました。

次は、稽古が出来ない事です。東京にある多くの教場が、区の施設を利用して稽古をしておりますが、3月から区の施設が軒並み感染拡大防止の為、利用中止となり、稽古が出来なくなりました。区によって対応がそれぞれであり、厳しい(?)対応をしている区では、9月現在未だに施設の利用に制限があり、稽古の再開が出来ない教場があるので、会員の多くは高齢者であり、家族からもバス・電車を利用しての外出を止められたり、唯一の楽しみでもある詩吟の稽古が長期間に亘つて出来ないうている事は、最悪の状態「退会」につながつて行く事となります。ワクチンが早く開発され、心配しないで安全に暮らせる日を心待ちにしている今日この頃です。

松尾錦鳳先生を偲んで

…母を偲んで…

昨年8月9日に亡くなられました本会最高諮問委員・松尾錦鳳総師範のご子息さまより錦友へ投稿をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

(S)



松尾錦鳳先生



小嶺錦川先生

母、松尾錦鳳は、大正・昭和・平成・令和を生き抜き、令和元年8月9日(長崎原爆の日)、百歳の天寿を全うしました。錦城会とのご縁は、母(やよい)と故松尾城州先生の母(タカ)の義姉妹が公民館活動として、小嶺錦川先生よりご指導を受け、母もその道に足を踏み入れたと聞いています。

金田小学校6年生詩吟講座を開催

滋賀県近江八幡支部

令和2年2月13日(木) 午前9時30分から10時20分にかけて、近江八幡市立金田小学校多目的ホールにおいて、金田小学校6年生一七八名を対象に今回3回目の詩吟講座を開催しました。

福地城塞先生(松尾尚則)の挨拶の後、男性3名で「本能寺」を、女性2名で「題近江八景図」を吟じ、続いて女性1名で児童の関心が高い「百人一首」の中にある和歌「いにしへの」を朗詠しました。その後、岡村城司総師範の指導で、詩吟の発声法と6年生の教科書に掲載されている「春暁」を学び、6年生全員が大きな声を出して吟じました。児童の中には、詩吟に大変関心を持ち、後日の通常の練習を見学に来た人もいました。また、教頭先生から「来年もぜひお願いします。」とのこと

昭和29年、当時、佐世保の夏秋錦穂先生に続き、小嶺錦川先生を師範として、島原半島北有馬に「錦城会北有馬支部」を発足。以来、この地区に吟道を広めるため、日夜走り回っていた記憶があります。32年、長崎市に錦城会進出を目指して、講演会を開催すべく準備に奔走しているさなか、打ち合わせを終えての帰途、夫豊杵(高校教師・尺八伴奏者)と小嶺師範ご夫妻が乗り合わせたバスの転落事故により、3名との哀しい別れを迎えることになりました。

小嶺錦川先生の意志を受け継ぎ、夏秋錦穂先生のご指導の下、それからの母の生き方は吟道一筋。15年前、自宅で稽古中、突然胸の苦しさを訴え、心臓病にて入院を繰り返すことになりましたが、そうした状況の中でも、詩吟に対する思い入れは強く、吟道をご理解いただいた院長のご配慮もあり、97歳まで月3度の外出の許可を頂き、指導に当たってきた母の姿を誇らしくさえ思うこともありました。95〜6歳までは、定例の長崎県大会や役員会等に嫁の錦静の付き添いにより出席していました。最期まで吟道を生きがいを感じながら歩み続けてきた母の生き方に感謝を受けております。生前に賜りましたご厚情に感謝申し上げます。

(松尾尚則)

詩舞道錦城流 広島支部温習会

〔開催日〕令和2年9月27日
〔会場〕中広集会所

新型コロナウイルスの早期収束を願って、西川緑恵先生を筆頭に、有志22名が集合、マスク、手洗い、アルコール消毒、ソーシャルディスタンスを守り、発表会スタート。参加者は少数ながら、皆さま稽古結果を充分出す中、宗家・本村緑崇先生から嬉しい激励を頂き、元氣百倍、実力以上の出来栄で、笑顔笑顔で踊り終了。その後、昇伝者



これからは、来年の鹿児島での詩舞道全国大会が大成功出来るように稽古に励み応援しようと誓い、温習会は終了しました。終了後は、参加者全員で広島名物・お好み焼きで舌鼓。今日は最高の一日でした。西川緑恵先生、ご指導ありがとうございました。(広島支部・山本緑詩)

(S)

9月道央本部便り (令和2年9月10日発行)

北海道道央本部長 本間城楓



モエレ沼公園 (札幌市東区)
(道央本部とは違う写真を使用しています。)

一人ひとりと向き合う

ひと夏を越す、またひと冬を越す、高齢者にとって簡単なことではない。心身に年輪として刻まれ、一年一年を、一日一日を悔いのないようにと心がけても、思い通りにいかないのが人生なのか。道央本部は新型コロナウイルス感染症の影響で4月から9月まで活動を自粛しました。7月27日の常務理事会で10月からの活動再開について話し合いました。

9月20日(日)午後2時から月寒公民館での常務理事会でも細部にわたり煮詰めます。前回は申し上げましたが、師範会としての行事『自主練習』を10月5日(月)午後1時から中央区民センターで行います。その日は、12名位の参加者を想定しています。会館の方からも定員の半分以下でと言われており、名簿の提出も求められています。衛生面で細心の注意を払って行います。各教場の稽古も10月から逐次再開する予定になっております。

道央本部の行事としては、『納吟の集い』を予定通り11月8日(日)月寒公民館で午後1時半から行います。一番広い部屋を確保できました。参加者22名位を想定しており、これも感染予防対策を万全にして実施いたします。(中略)

この度の諸行事は久しぶりで、顔合わせの意味合いもあり、吟界も種々難問を抱えています。これは文化団体共通のことであり、皆さんと励ましあいながら、道央において「錦城流・錦城会」の灯を消さないように頑張っていきたいと思います。

来年は、オリンピックの年です。IOCコーツ調整委員長が来年必ず五輪が開催されるとの見方を示しました。北海道選出の橋本聖子五輪相も8日の会見で「大会関係者が一丸となって準備しており、アスリートも与えられた環境で努力している。何としても開催しないといけない」と言っている。生きているうちに日本で開催されるオリンピックをまた見られることはありがたいことです。私たちはコロナの中でも、前向きに、素晴らしい方向を見ていきたいと思います。

コロナウイルスの拡大禍での教場模様

広島南支部 翠町教場

私達の教場は、西川錦洗先生を始め皆さん明るく、中でも河浦城楓さんがリーダー兼年寄りの世話係で、私達に細かい心配りをしてくださいます。お茶の用意から鉛筆削り、カレンダーめくりまで、いつの間にかして下さっていて、私達女性は、恥ずかしく思っているのですが、腰が椅子に貼りついていて、中々立ち上がれません。

また、病後の方が外出する自信がないといわれると「皆と会うだけでも元気が出るから」と、いつも家まで迎えに行つて、帰りも送つて行かれます。私達も、帰りは便乗して、電停やデパートで降りさせていただいています。

今年、コロナと酷暑で外出もままならず、鬱々とした日々でした。テレビを見れば、政治家の驕り高ぶった答弁とマスク警察・帰省警察と気の滅入る事ばかり、唯一の楽しみが詩吟のお稽日でした。

お陰で、彼女もすっかり元気を取り戻されました。年に一度は旅行にも行きたいと積立貯金をしていますし、毎月誕生会という名目で昼食会をします。なぜか誕生日の方がいない月も昼食会は開かれます。河浦さんのお人柄でしょうか、何事も嫌な顔一つせず、楽しげにしている姿には頭が下がります。今はコロナのため、実行できていませんが、一日も早い収束を祈るばかりです。

ウイズコロナで苦しくてもマスクをかけて稽古を続けていたら、先日、西川先生が、フェイスフィルターを皆に買つてくださいます。楽にお稽古ができるようになりましたが、被つたままお茶を頂くとする人が続出で、大笑いいたしました。



若い頃、鉄砲術で家中無双と言われるほどの腕を持っていた竹外が、その後、なぜ「疎放、飄逸（世俗のわずらわしさを気にしないでのびのびしていること）、酒乱」と評されるような生活を送るようになったのかは分かっていません。

天保8年(1837)2月19日、大塩平八郎が大阪天満与力町でおこした一揆は、彼が高槻藩士と親交があり、一部の子弟が門人として大塩の塾邸に学んでいたことなどから、家中に大きな

年と共に声の出は悪くなつていますが、自分の足で歩くことが出来る間は、詩吟を覚えたり、難解な言葉の意味を調べたりで

認知症を予防し、楽しい仲間と健康に笑い、ともに学び続けたいと思う今日この頃です。

(藤井錦紅)

錦城流の教本に掲載されている 漢詩の作者(8) 藤井竹外



高槻藩の中堅家臣
文化4年(1809)4月20日、摂津高槻藩の武士・藤井沢右衛門(定綱)の長男として生まれ古くは代々知行地をうける権利をもつ家格で、時には政務の中樞を担いける身分でもありま

した。私淑した頼山陽はすでに亡く、その社会批判の流れをくむとはいえ、大塩平八郎のような激派にも至らなかつた竹外は、弾圧の姿勢を拒むことで自らの節度を表したのでしようか。彼の詩作の中に、のちに尊王派志士となる梁川星巖との交友を詠んだものが多いのも、その思想と行動の位相を暗示していると思われま

ある時、竹外は江戸勤番を命ぜられました。しぶしぶ下つたものの、頭の中は漢詩ばかり。近所の銭湯へ行ったのはよいのですが、帰り道を忘れ、浴衣のまま往来で地図を広げているとうしろから友人の声。「もし、藤井殿、何をしてござる」「いやなに屋敷藩邸に帰る道を忘れたらよって、探しておりませう」「ハハハ、これは酔狂な屋敷はここぞござろう」。みると竹外は藩邸の目の前で地図を広げていたのでした。

慶応2年の7月に死亡

こんな彼にも世情の変転の中で、憂国の血が騒いでいたに違いありません。花鳥風詠の多い彼の七言絶句の中で、時おり尊王思想などがのぞくのも、あながち時代性とばかりはいえないでしょう。竹外は明治維新を見ずに慶応2年(1866)7月、60歳で亡くなりました。

(参考文献)
・高槻市ホームページ「インターネット歴史館」
・デジタル大辞泉

この事件があつてから竹外の奇行は、度を増して人々の目をひきました。詩作に取り付かれ心になつた句が思い浮かぶとあたり構わず大声で「妙」と叫ぶのが、誰知らぬ者もない癖となりました。泥酔して路上に眠つたり、素足で野原を涉遊することもしばしば。

コロナ禍でも錦城会会員の感染は全国から聞こえて来ません。それぞれの大変な努力の結果だと思えます。油断せずに、この時期を乗り越えましょう。(S)

編集後記